

石垣島 ハーブ商品開発

嵩西 洋子さん(59)

“畑で収穫した宝物”



▲嵩西さんが育てたハーブが生けてあった

「心を込めたものづくり」をモットーに、ハーブの栽培から商品開発、販売までを一元管理する石垣島胡椒園代表の嵩西洋子さん(59)。栽培するハーブはすべて有機栽培で、オーガニック(有機JAS規格)の認証を受けている。また、無添加にもこだわり、薬や化学肥料を一切使用しない。自家製ハーブを使用したオリジナル商品を開発。自分の畑で収穫した宝物、という思いを込めて「石垣島特産ハーブセット」の畑のたまてばこ」と題した詰め合わせを日本郵便株式会社から販売している。嵩西さんのハーブ作りに対する情熱の原点は、祖母との思い出にあった。



▲丹精込めて育てたハーブの手入れをする嵩西洋子さん

嵩西さんは与那国島生まれ。八重山商工高校を卒業後、郷里で就職。22歳で結婚。石垣島に移住する。嵩西さんが初めて商品開発したのは2003年のとき。美しい花が地面に落ちるのを見て「何とかしなくちゃ」とアカバナ(ツツソウゲ)のジャムを作ったことがきっかけ。親戚や友人が「おいしいおいしい」と言ってくれてくれたことがうれしくて、商品化を思い立つ。

嵩西さんの幼少期は、裕福な家庭とは言えない環境だった。大好きな祖母は「ものを粗末にはいけない」といつも嵩西さんに言い聞かせた。口癖は「もったいない」。包丁の柄が取れば、取り替えて使い続ける。洋服の生地が傷めば、縫い糸を解いて作り直す。ぜんそくを患っていた嵩西さんには、島の薬草を食べさせた。「祖母の愛情を受けて育った環境の中で、自然と、エゴ」の感覚が身についた」と嵩西さん。「植物を通じて周りに愛情を伝えることができることを教えてくれたのは祖母だった」と振り返る。

嵩西さんがこだわるのは、石垣島産。「石垣島のイメージを大切にしながら開発。手に

「石垣島特産ハーブセット」の畑のたまてばこ」6点セット(嵩西洋子さん提供)



取ってくれる人たちに喜んでもらえるだろう」と語る。「ハーブを通して石垣島を元気にしたい」という思いが、嵩西さんの背中を後押しする。日本郵便株式会社から販売しているのは2種類の商品。県内全ての郵便局で取り扱っている。商品のラベルも嵩西さんお手製。2種類の商品は3点セットと6点セット。3点セットは21種のハーブを使った塩(ハーブソルト)と紅茶(ハーブティ)、手作りピパーチジャム。6点セットはハーブソルト、ハーブティ、バラジャム、ローゼルジャム、ピパーチ、オリゼオイル漬けピパーチ。郵便局に置いてあるカタログで申込み。販売期間は1月30日まで。年始の発送は4日から。商品に関する問い合わせは、石垣島胡椒園0980-82-7038。

「石垣島特産ハーブセット～畑のたまてばこ～」3点セット(嵩西洋子さん提供)